市議会だより意見募集結果

こども施策に関して次のことについてご意見をお寄せください。

① こどもを取り巻く課題　② こどもの権利

③ 保護者権利・役割　④ 郷土愛を育む子育てのあり方

⑤ 地域の役割　⑥ 市の責務

・意見提出者は５人。（年齢30代、50代、60代から各１名、40代から２名）

①　こどもを取り巻く課題について

・こどもが巻き込まれる事件やこどもが引き起こす事件が絶えない世の中となり、安心して子育てができる時代ではないと感じています。さまざまなアプローチが必要だと思いますが、こどもの健全な自立を支えるための地域活動も課題の一つと考えます。それは、こどもの思考・行動は安心できる安全基地があった上でさまざまな体験に基づくものと関与していると考えます。安全基地の確保のために家庭内でのトラブルを地域で解決していく、さまざまな体験を通して多くの人と関わりこどもの視野を広げていくことが今後も発展していってほしい課題だと思います。
家庭への介入として子育て支援センターをはじめ手厚いサポートがある現状だとは思いますが、必要な人がどのくらい利用できているのかは見える化できないところだと思います。ちょっとしたSOSを出しやすい場が増え、そこからの連携で行政の目が届くことを望みます。また、こどもが同居家族や保育者以外の大人と関わる機会が増えることもこどもにとって刺激になると思います。地域イベントの継続と増加を望みます。
・ランドセルの重さ　成長過程にあの重さを背負って30分　残酷としか言いようがありません。南芦屋浜から潮見小往復バスが必要。南芦屋浜はまだまだ子供か増えます。小学校を作らなかった責任は芦屋市です。
南芦屋浜にはよそから来る車が多く信号が必要不可欠です。市内のこんなとこになぜ信号？？と思うところにあり、また突然なくなったり、一体何をしてるのだろうかと不審に思います。南芦屋浜で事故死が起きるまで信号をつけない予定なんでしょうか。私なら事故が起きる前に信号を設置します。信号設置決議に時間かかりすぎて何年先では話しにならない。ゴミ袋や芦屋温泉より先にやって下さい。子供達を守らないで後まわしにしていること。一体何が原因でしょうか。
・保育サービス等は増えているのに、トータルとして、個々の親に課される子育てや教育の責任、リスク管理責任などが強まり、家庭が閉じて息苦しさが大きい点が大きな課題だと思います。
・不登校、親の心身不調など親子がしんどくなりはじめた時も、個々の家族任せが過ぎる点は深刻な課題だと思います。
・子どもたちが塾、受験勉強、高校受験のための内申点をとること等におわれている部分が大き過ぎる点が課題です。

②　こどもの権利について

・教育長が掲げておられる「あなたが大切だ」という言葉を、ぜひこども自身の視点からも検証していただきたいです。実体験を通して感じたことから、意見をお伝えします。
大人が「こどもを大切にした」と考えていることと、こども自身が「自分は大切にされた」と感じることは、必ずしも一致するとは限らないと思います。

こどもたちが学校生活の中で、どのような言葉や対応、場面で「自分は大切にされている」と感じるのか、反対に、どのようなときに「大切にされていない」と感じるのかを、こども自身から聴く機会を設けていただきたいです。

学校側に傷つける意図がなくても、その言葉や対応によってこどもが傷つくことがあります。大人側の意図だけで判断するのではなく、こどもが実際にどう受け止めたのかを知り、その声をもとに学校側も自らの対応を振り返る機会を設けていただきたいと思います。

また、いじめ重大事態の調査中である場合や、学校との信頼関係が大きく損なわれ、安心して通学することが困難となった場合など、特別な事情があるときには、市内の別の学校を選択できる仕組みも検討していただきたいです。

学校と家庭との信頼関係が失われた状態では、こどもの成長を学校と家庭が一緒に見守り、支えていくことも困難になります。こどもの学校生活には限られた時間しかありません。信頼関係の修復を待つことだけに貴重な時間を費やすのではなく、安心して学べる環境へ移ることも、こどもの権利を守るための選択肢としていただきたいです。

「あなたが大切だ」という理念が、大人が大切にしたかどうかだけで評価されるのではなく、こども自身が「私は大切にされている」と実感できているかを確かめ続ける条例となることを望みます。

・幼少期の日常から、子どもが思ったこと、モヤモヤと思っていることなどを話せる、話し合える、話して変化が起きたと経験する機会やチャンネルを意識して増やすことが、こどもの権利のためにとても大事だと思います。

・市のウェブサイトや子ども配布のタブレットに、”子育て”観点ではなく、こども向けのページで、子どもの権利の説明や公民の様々なおとな、若者、団体などがいるよ、連絡してねと存在を伝えることが今後必要だと思います。

③　保護者権利・役割について

・保護者の権利という表現、は他であまり聞かず少し違和感があります。

・親、養育者がその役割を果たすのはそもそも大変で１人では難しいこと、だから役割を果たすためのサポートを得る権利があるということが伝わると理想的だと考えます。

④　郷土愛を育む子育てのあり方について

・芦屋の場合、すばらしい給食は芦屋での共通した原風景、郷土愛につながる一つの要素だと感じ、また感謝しています。そうした共通のポジティブな経験が他でも何か強調され、認識されるとよいと思います。

⑤　地域の役割について

・子どもにとって、身近にいろんな価値観や仕事の大人と出会えたり、困った時にぽろっと本音を話せる信頼できる大人がいたり、助けてくれたりするのが、地域の役割の一つだと思います。例えばそうした地域のイメージ、できることの具体例を改めて広められたらよいと思います。個人情報や見知らぬ人とは話さないなど、世知辛い昨今ですが、それで仕方ないという諦めが続けば、冷たい、子どもが育ちにくい地域になってしまうと思います。現実には子どもに関連して何か、無理なく役立ちたいと思うおとなは、若者、親世代もシニアも近所に多数いる肌感覚があります。

⑥　市の責務について

・いじめ重大事態について、当事者であるこどもや家庭のプライバシーを守り、個人が特定されないよう十分に配慮した上で、どのような態様・背景の事案が起きているのか、また学校や教育委員会がどのように対応したのかについて、可能な範囲で公表していただきたいです。

保護者として、市内の学校で実際にどのようないじめが起き、その際に学校や教育委員会がどのような対応を行っているのかを知ることは、こどもの安全を考える上で重要です。公表は単に件数や概要を示すだけでなく、事案の検証によって明らかになった課題、再発防止策、その後どのような改善が行われたのかまで市民が

確認できるものにしていただきたいです。調査や検証から得られた教訓を市内の学校で共有し、今後同じような状況に置かれるこどもを生まないために生かしていただきたいです。
また、こどもの安全や安心に関わる問題が生じた際には、情報が適切に共有され、問題が過小評価されたり、必要な情報が埋もれたりすることのない体制を求めます。こどもや保護者が、何が確認され、どのような判断がなされ、今後どのような対応を行うのかについて、可能な限り速やかに説明を受けられる仕組みも必要だと思います。
学校等の記録についても、担当者によって内容や詳しさに大きな差が生じないよう、共通の記録フォーマットや基準を設け、「相談・訴えの内容」「確認できた事実」「関係者それぞれの説明」「対応内容」「判断とその理由」「いつ、誰に情報共有したのか」などを区別して記録する仕組みを希望します。
記録者個人の主観や評価によって、事実関係の記録やその後の対応に差が生じることなく、条例に基づいた公平で一貫した対応が行われ、その経過を後から第三者が検証できる透明性のある体制を望みます。

・子どもたちが家庭環境に左右されずに学ぶ場を確保できるよう、小学校区それぞれに自習室（無償）を整備してほしい。
その見守りには大学生（有給）を雇い、大学生のとっては住まい近隣でバイトが出来るし、子どもたちには少し年上の相談役となると思う。
・まずは子供の安全第一すぐに信号設置するよう動いて下さい。
・子どもの権利を掲げる条例であれば、市の責務の部分が最も重要です。個々の事業メニューというより、子ども若者が、自身やまちに関わることに参画する仕組みにすること、権利が守られない時は子ども、親・親子を社会的に支援するということの明言が肝だと思います。